



人権と平和は
21世紀のキーワード

〒720-0061 福山市丸之内1-1-1
TEL 924-6789 FAX 924-6850

jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

企画展「子どもと人権 ～貧困・虐待・いじめ・問題行動など」

会期：2017年1月17日(火)～3月26日(日)

最近、よく聞く「子どもの貧困」ってなんでしょう？

先進国といわれる国の中で、日本は「相対的貧困率」が高く、とりわけ、子どもは6人に1人が「貧困」だと、厚生労働省やOECD(経済協力開発機構)が発表しました。

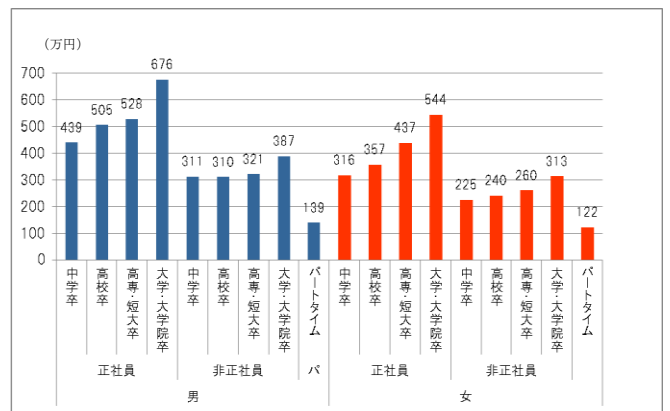
2014年(平成26年)1月には、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行されました。この法律は、子どもの貧困対策を総合的に推進することを目的としています。

なぜ子どもの貧困が増えているのでしょうか？

非正規雇用者の増加

理由の第一は、子育て世代の非正規雇用者の割合の増加です。雇用者に占める非正規雇用者の割合は、1990年(平成2年)の20.2%から2015年(平成27年)には37.6%まで増加しています。

右上の図は、40歳時点における年間収入を性別・雇用形態・学歴別に示したのですが、正社員と非正規社員・パートタイムでは年間収入の格差が大きいことがわかります。



出所：厚生労働省「平成26年賃金構造基本統計調査」をもとに、日本財団・三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

ひとり親家庭の増加

第二は、貧困率の高いひとり親家庭、とりわけ母子世帯の増加です。母子世帯の非正規雇用比率は57.0%、平均年間就労収入は181万円となっており、経済的にきびしい環境にあります。18歳未満の子どもがいる世帯のうち、母子世帯が占める割合は、1988年(昭和63年)の約3.4%から、2012年(平成24年)の約6.8%へと2倍に増加しています。

低水準にとどまる公的支出

第三は、家族向けの公的な支出(家族手当、出産・育児休業手当、保育・就学前教育等)や公的な教育支出の少なさです。つまり、日本では、子育てや教育に関する公的なサポートや所得配分機能が弱く、所得の減少が子どもを含めた生活困窮へとつながってしまう傾向が強いです。



講演会

「ばっちゃんの「お帰り」が聞こえる」



中本 忠子 (ちかこ) さんプロフィール

社会に居場所を失い、非行に走る子どもたち。そんな少年や少女に寄り添い、30年以上、その立ち直りを支えてきた。「ばっちゃん」こと、元保護司の中本忠子(ちかこ)さん82歳。長年の経験から、「非行の根っこには空腹がある」と確信した中本さんは、広島市内にある自宅を開放し、手料理を振る舞い、親身になって相談に乗りながら、多くの子どもたちを更生させてきた。

個人の活動を発展させる形で2004年、仲間と「食べて語ろう会」を始め、広島市内の公民館で月2回食事会を開く。2015年にNPO法人化し、2016年12月には市内に新たな拠点も開設した。10人ほどのボランティアが交代でほぼ毎日、食事を作り、「よお来たね」とおなかをすかせた子どもを迎える。2015年に社会貢献支援財団(東京)の社会貢献者表彰を受賞。

と き : 2017年(平成29年)3月18日(土)午後1時30分～

と ころ : 福山市人権平和資料館 2F研修室 (電話 : 084-924-6789)

講 師 : 中本 忠子 (ちかこ) さん

NPO法人「食べて語ろう会」理事長

「部落差別解消推進法」

が成立しました!

「部落差別の解消の推進に関する法律」が、2016年(平成28年)12月16日から施行されました。

「部落差別」の名称が付く初の法律で、インターネットを通じて拡散する特定の人々への憎悪や差別など、今日的な課題に対処する指標の一つとなることが期待されています。

法は、罰則の規定がない理念法(全6条)で、国や地方自治体に相談体制の充実や啓発・教育の推進、実態調査などを求めています。

国は、かつて部落差別の解消を「国の責務であり、国民的課題」として特別法を制定し、1969年から

2002年まで、住環境の改善など物的事業を中心に取り組むほか、福山市でも、1979年度から「住民学習会」を開催するなど、啓発活動にも取り組んで来ました。

全国水平社が「人の世に熱あれ、人間に光あれ」と、差別との闘いを宣言して間もなく95年になろうとしています(1922年3月3日)が、差別そのものがなくなったわけではありません。法務省が把握する結婚差別など部落差別に関する人権侵犯は、この10年間ほぼ毎年100件を超えています。

ネット上では、被差別部落の地名が掲載されるなど、差別助長につながる書き込みが後を絶ちません。差別をあおる風潮はなぜ生まれるのか。この機に部落差別について改めて考えてみたいと思います。